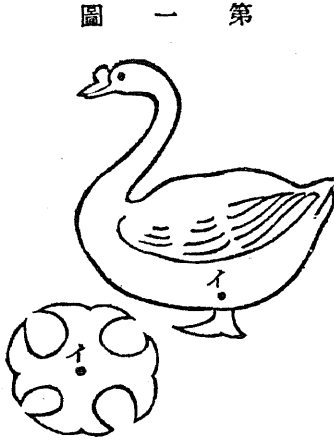


おもちゃ箱から — 家庭製作 —

東京女師高等師範學校講師 藤 五代 策

一 歩く鷺鳥

成るべく厚いボール紙の上に、第一圖の鷺鳥の形をゑがいて（脚は附けない）、鋏又は切出し小刀で切り貫きます。



次に脚部を作るにはボール紙の上到一个の圓をえがいて、其の内に下圖に示すやうな車形の脚を圖取りして切り貫くの

です。

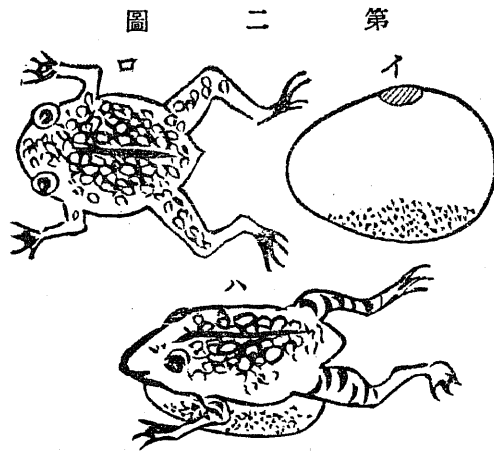
これから車形の脚の中心點（イ）を鷺鳥の下腹部の（イ）の下に重ねて錐孔を通し、之れに紙の小摺ヒョウを刺して表面裏面を結び、コブシで止めるのです。

今この鷺鳥の尾端を持ち、脚を座上に附けて前方に押し、車形の脚はクルリく廻つて、次ぎぐと現れるので、眞に歩いてゐるやうに見えます。鷺鳥が出来ましたら、同一方法で、あひる、雞などを作つてごらん下さい。

二 水面に浮く蛙

一つの卵をこり、一側面（イ）部に孔を穿けて、中の身を吸ひこり、之れから少し許りの砂を入れます（砂の量は卵のからが半水面に浮く位に入れるのです。）

次に畫用紙の上に(ロ)の如き蛙の形を描いて鋏で切り貫き、初め作った卵の殻の上に糊ではりつけます。



是れからロウソクの燃え屑を茶碗に入れ火で温めろさだんぐ熔けてしろくになりまさら、その液を筆につけて、蛙の上面や下面全體にぬるのです。

今此の蛙を水鉢や庭のお池に浮べますと、眞の蛙が泳いでゐるやうに見えます。

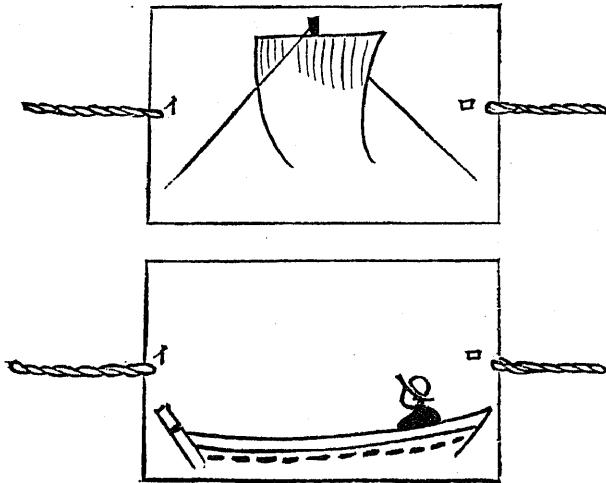
同一の仕方で龜の子や金魚なぎを作つたら、一層面白いことじやう。

おもちゃ箱から

三舟に子供

ボール紙から長さ四寸、幅二寸五分位の長方形を切り取り(表裏面とも白紙にて貼ります)、表面の方には上圖の如

圖三第



四

き舟の帆と帆綱ををかき、裏面には下圖のやうな舟に子供ミを描きます。最後にボール紙の左ミ右の端に(イ)(ロ)の紐をつけるのです。

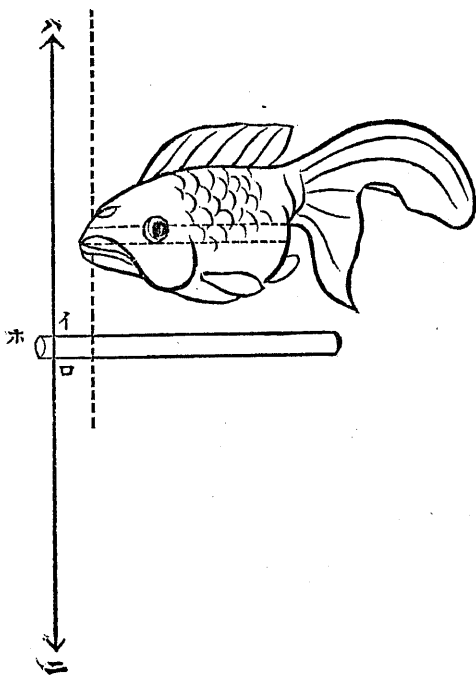
今此の紐を左右の手に摘みながらクルクルミ廻せば、表面の帆と裏面の舟とが一しよに見えて、恰度帆を揚げた舟に子供が乗つてゐるやうに見えます。

凡て吾々の眼には、一物體を見た後に其の物體が去つても、暫時はその形を残存してゐるものです。斯様な道理からして、此の玩具にても先づ表面の帆を見るや否や、其のものは去つて裏面の舟ミ子供が現れて、交互に表裏の繪が隠現するから、一つの圖形として認められるのです。活動寫眞の活動する原理もこの殘像の道理を應用したものです。

第四圖

四 フルく降る金魚

直徑三分、長さ二寸位の管竹をミつて、左端(イ)(ロ)にかさい鍍孔を穿けて、之れに長さ一尺許りの極細い針金を



通します。

次に畫用紙を二つに折つて、其の一面に第四圖の金魚の形を描いて切り貫き、初めに作つた管竹を中に挟んで、兩面から金魚の形を貼り合はせます。(つづく)